

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ) あかね噺の見どころ

落語歳時記シリーズ



葉月(8月)の落語 「お菊の皿」(皿屋敷)

町内の若い衆がご隠居の元をたずねる。「番町・皿屋敷というのはなんですか？」
その屋敷にお菊という奉公人がいた。主人の大切にしていた十枚組の皿の一枚を割ってしまう。
主人は激昂してお菊を手打ちにし、遺体を井戸に投げ込んだ。井戸の底から成仏できないお菊の
皿を数える声が聞こえるようになる・・・」「そりゃあいい 今日にでもみんなで行ってきます」
「皿を最後まで数えるところを聞いてしまうと祟りで死んでしまうそうだ。途中で逃げるんだぞ」
若い衆たちはその晩皿屋敷へ。なるほどご隠居のいうとおり古ぼけた井戸がある。

「六枚目あたりで逃げりゃいいやな」と馬鹿話をしている間に時刻は草木も眠る丑三つ時
どこからともなく生暖かい風が吹いてくる そしてお菊の幽霊:「いちまあい、にまあい…」
「ギャーほんとにでたー！」逃げ出す若い衆。この噂が広まって 本物の幽霊を一目見ようと
見物客達が井戸に集まってくる。押すな押すなの人。酒や饅頭を売る出店まで出る。

「これじゃあ身動きが取れないな お？時間か？」生暖かい風が続いてお菊が現れた。

「一枚(いちまあい)、2枚(にまあい)・・・6枚(ろくまあい)・・・」

「六枚目だ！それみんな逃げろ！」

そう思ったが逃げる者、腰を抜かす者、人が多過ぎて大混乱！前に進めない

「7枚、8枚・・・」「ああ！もうだめだ！と思っていたら

「・・・16枚、17枚、18枚」18枚まで数えてしまった

「お菊さん なんで18枚まで数えたんだい？」

「二日分数えて明日は休ませてもらいます」



■ 二つ目 (小咄の稽古)

小ばなしの話し方の基本

⑥落ち(おち)の言い方

落ちは、ゆっくり、はっきり、大きな声で
落ちのセリフは短めに。落ちの少し前から盛り上げる
この後皆さまの「小ばなし」披露

■ 大喜利

今回も 謎かけ で、お題は「花火」「かき氷」

次回は2026年9月7日(月)

次回のなぞかけのお題は「秋の味覚」「満月」